



平成30年10月4日

「新千歳空港誘導路複線化」整備に着手

～新千歳空港における冬期安定運航を図る誘導路整備に着手～

北海道開発局では、新千歳空港で課題となっている冬期の安定運航（欠航や遅延の回避・軽減）を目的とした新たな誘導路整備として、「平行誘導路複線化」及び「末端取付誘導路複線化」に着手します。

新千歳空港では降雪シーズン（11月～3月）に欠航や遅延が多く発生しており、冬期の安定運航が課題となっています。

冬期における航空機の欠航や遅延は、除雪車両や駐機場へ引き返す航空機の動線が確保（誘導路が複線化）されていないことが一因となっていることから、複線化誘導路の整備を行い、冬期における航空機の欠航や遅延の回避・軽減を図ります。

この度、航空法第四十条による新千歳空港の施設に変更を加える告示があり、変更内容が決定しましたので、測量等に着手します。

整備箇所、内容については別添資料をご参照ください。

【問合せ先】国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

港湾空港部 空港・防災課 課長補佐

日色 徳彦（内線 5632）

空港調査・防災専門官 福井 貴（内線 5645）

北海道開発局ホームページ <http://www.hkd.mlit.go.jp/>



冬期の安定運航を図る「新千歳空港誘導路複線化」

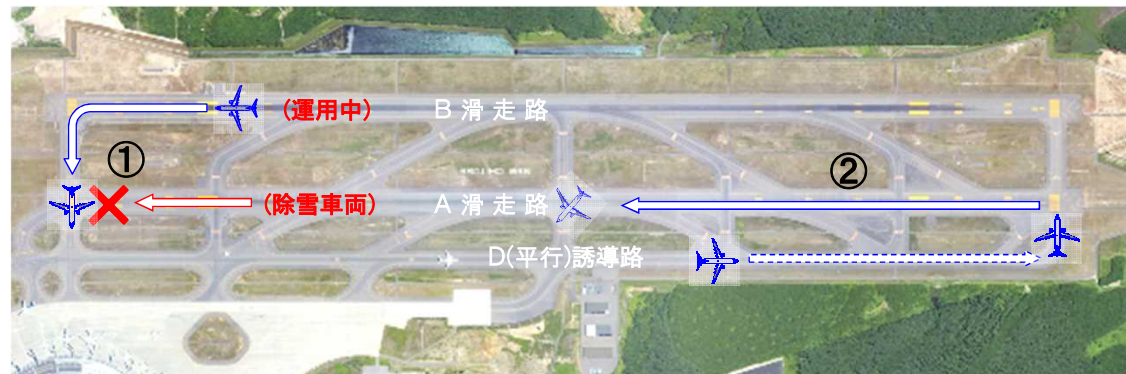
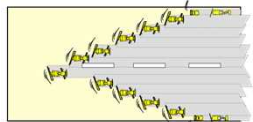
冬期における安定運航～欠航・遅延便の回避・軽減～

- 新千歳空港では降雪シーズン(11月～3月)に欠航や遅延が多く発生しており、冬期の安定運航が課題となっている。
- 除雪車両や駐機場へ引き返す航空機の動線が確保されていないため、滑走路の閉鎖時間が長引き、冬期における航空機の欠航や遅延の一因となっている。
- 末端取付誘導路及び平行誘導路を整備（複線化）することで、除雪等による滑走路閉鎖時間を短縮し、冬期における欠航、遅延便の回避・軽減を図る。

整備前

①冬期の滑走路除雪では、運用中の滑走路から航空機が絶えず通行するため、除雪終了後においても、除雪車両の滑走路末端部での待機が生じ、滑走路の閉鎖時間が長引く。

<除雪体制>



②離陸機が「ホールドオーバータイム※切れ」などにより、駐機場に引き返すこと（グランドターンバック）となった場合、駐機場まで戻る動線が確保されていないため、滑走路を走行（占有）しなければならない。

※航空機に散布する防氷液の効果時間

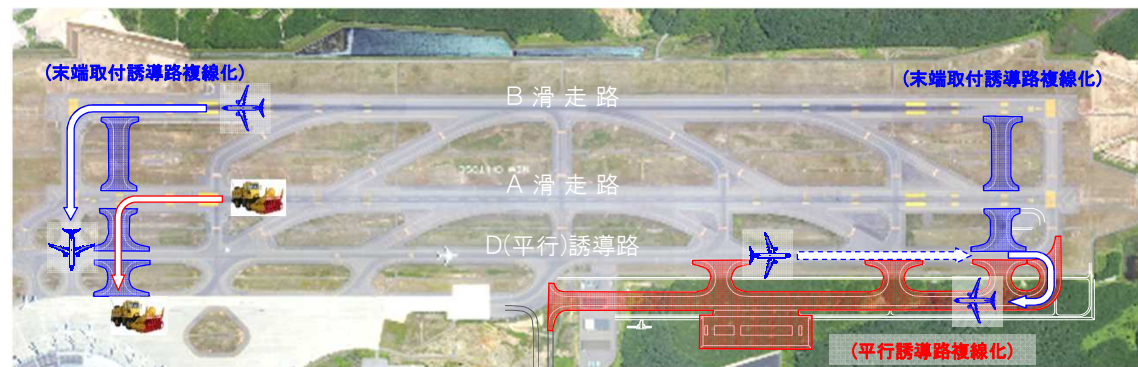
主な整備効果

<末端取付誘導路複線化>

- 除雪車両の待機時間の短縮による滑走路の早期解放
航空機の通行の影響を受けることなく、除雪車両が移動できることにより、滑走路の早期解放（閉鎖時間の短縮）が可能となる。

<平行誘導路複線化>

- グランドターンバック便による滑走路閉鎖の回避
滑走路を通行（占有）することなくグランドターンバックが可能となり、滑走路閉鎖（他の航空機の離着陸の妨げ）を回避することができる。



「新千歳空港誘導路複線化」整備概要

「新千歳空港誘導路複線化」

- 末端取付誘導路複線化(北側・南側) [期間：平成30年度～平成34年度予定]
- 平行誘導路複線化(消防庁舎等移転含む) [期間：平成30年度～平成37年度予定]

